



## BPSD (認知症に伴う行動・心理症状) について

横浜ほうゆう病院 院長 日野 博昭

来る11月22日、市民向け医療・福祉講座として「認知症患者のBPSDに対する対応」を開催します。さて、「BPSD」という言葉をご存知でしょうか。Behavioral and Psychological Symptoms of Dementiaの略で、直訳すれば「認知症の行動症状と心理症状」であり、物忘れや判断力の低下などの「中核症状」に伴って現れる精神・行動面の症状である「周辺症状」にほぼ重なる概念です。その行動症状には、身体的攻撃性(暴言や暴力)・徘徊・不穏・焦燥・逸脱行動・性的脱抑制・叫声などが、心理症状には、妄想・幻覚・睡眠障害・抑うつ・不安などがあります。

なぜ認知症介護においてBPSD対応は重要なのでしょうか?上記のような症状が出現すると、当然、介護者への直接的なストレスが増加します。これにより、本人のみならず介護者までのQOLが低下し、在宅介護が難しくなります。そして、入院や入所が早まったり、薬物療法が必要になることがあります。その結果、薬物療法の副次的な作用から認知機能が低下したり、医療・介護などのコストが増加するため、BPSD対応が重要となるのです。

BPSD対応の原則は、症状を正確に評価して治療の対象を定めます。評価にはBPSDの性状や種類、頻度や重症度、本人や介護者にリスクがどれくらいあるか、あるいはどの症状が介護負担となっているか、などの検討が必要です。更に、突然出現したのか、ゆっくり悪化しているのかにより対応を急ぐかを判断し、疾患そのものによるのか、環境要因により2次的に出現しているのか、あるいは両者による症状かにより対処法を選択します。治療の標的となるBPSDは

- ・日常生活上で患者自身のリスクになる
- ・介護負担が大きい
- ・患者と介護者のQOLに悪影響を与える
- ・高頻度に出現している

などで、標的症状を厳密に決めることが大切です。評価後、できるだけ理論的な仮説によって治療法を

選択します。原則として、まず非薬物療法を検討・実施し、効果不十分な場合に薬物療法を検討します。特にBPSDが高度で患者やその周囲に危害が及ぶ危険性がある場合は、薬物療法や当院のような精神科病院での入院治療を最初から考慮することもあります。

しかし、非薬物療法の効果は、日本神経学会のガイドラインでは「グレードC1」とされ、「概して効果は証明されていない。」と結論されています。グレードC1は「科学的根拠はないが、行うよう勧められる」と推奨グレードとしてはあまり高くはないものです。薬物療法も確立されたものではなく、いくつかの問題もあります。2005年、FDA(米国食品医薬品局)は「非定型抗精神病薬をBPSD治療に用いると死亡率が1.6~1.7倍上昇した」と警告し、これを添付文書に追加して適応未承認であるとの注意喚起を要請しました。その後、議論の末に2011年9月、厚労省より「『器質的疾患に伴うせん妄・精神運動興奮状態・易怒性』に対する非定型抗精神病薬などの処方審査上認める」と通達がありました。また、今年の7月、「かかりつけ医のためのBPSDに対応する向精神薬使用ガイドライン」が厚労省より発表されました。これは現在進められているオレンジプランへの布石と思われませんが、精神科以外の向精神薬に慣れていないかかりつけ医がこのガイドラインだけでBPSDのコントロールを行うことは、実際には難しいと思われれます。

以上のようにBPSD治療はいまだに「治療」といえるほど確立されたものはありませんが、当日はロールプレイも交え、当院での経験から蓄積されたより実践的な介護についてお伝えできればと考えています。皆様のご参加をお待ちしております。

### 【参考文献】

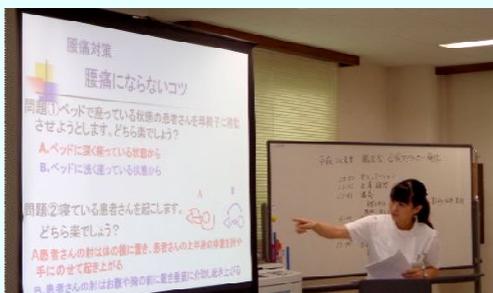
- ・池田学. 認知症の治療とケアの原則. In: 池田学編. 認知症 臨床の最前線. 医歯薬出版; 2012.



### ◆テーマ：安楽な体位・移乗・移動動作に関する基本的な知識・技術



【全体風景】



【基礎研修：横浜ほうゆう病院 井上科長】

今年で3回目を迎えたケアワーカー研修会。各施設より計25名の参加者で行われました。

初日は基礎研修として、横浜ほうゆう病院 井上ハビリ科長の講義で、「基本的な知識、技術の向上」「今までやってきた介助方法の見直し」などを学習した後、担当講師の演習により、自分の技術の振り返り、課題を抽出しました。

2日目以降は、各自の施設で技術チェック表にそっての実技演習。その後、担当者の評価を受け、課題のある場合は個別指導後に後日、再評価を受けました。

最終日は、実技評価合格者による「振り返りと学びの共有」を目的として、各自がレポート発表を行い、充実した内容の研修会でした。

参加したケアワーカーの感想からも、自分自身の成長が伝わるものとなり、この経験を仲間に伝達・共有したいという思いを皆が抱いていることも感じられました。

この研修を通して、鵬友会全体のレベルアップに繋がることを期待します。

### 『担当講師による演習風景』



### 『修了研修：レポート発表、意見交換』



### 修了証書



### ◆◆◆ 市民向け医療・福祉講座 開催のお知らせ ◆◆◆

【テーマ】認知症患者のBPSD（行動・心理症状）に対する対応

【日時】平成25年11月22日（金）17：10～19：10

【場所】横浜ほうゆう病院 デイケア内

【お申込み】鵬友会本部 上村 ☎045-810-0331 / 横浜ほうゆう病院 相原 ☎045-360-8787

**参加費 無料!**